

特別展

「根室海峡から発見されたマンモスゾウ臼歯化石」のお知らせ！



氷河期を代表する動物であるマンモスゾウの臼歯化石は、国内で12点しか発見されていません。その内5点は、根室海峡から、内3点は、野付半島沖からのものです。国内でも有数の発見地である根室海峡の臼歯化石を一堂に集め、特別展を開催し、発見の意義や学術的に価値が高いものであることを実物資料・解説パネル・ジオラマで紹介します。

1. 期 間 令和4年7月6日(水)～9月25日(日)
2. 場 所 郷土資料館第2展示室
3. 観覧料 郷土資料館観覧料 350円(高校生以下無料)で見学できます。

サマースクール

「大昔のべつかい・勾玉づくり」のお知らせ！

古代の人々は、粘土で作った土器で食事を作り、石で作ったまが玉を身に着けていました。そこには、たくさんの生活の知恵が込められ、苦労もありました。古代の人々の生活に挑戦し、その知恵と工夫を学んでみませんか。

1. 日 時 令和4年8月4日(木)
 - ①午前の部 10:00～12:00
 - ②午後の部 13:30～15:30
2. 内 容
 - ①お話 大昔のべつかい
 - ②体験活動 勾玉づくり
3. 場 所 郷土資料館
3. 対象者及び募集人員
午前・午後の部共に小学校以上 5名(親子参加可)
4. 申込期間 7月4日(月)～29日(金) 電話かメールにて「お名前・電話番号」を連絡ください。



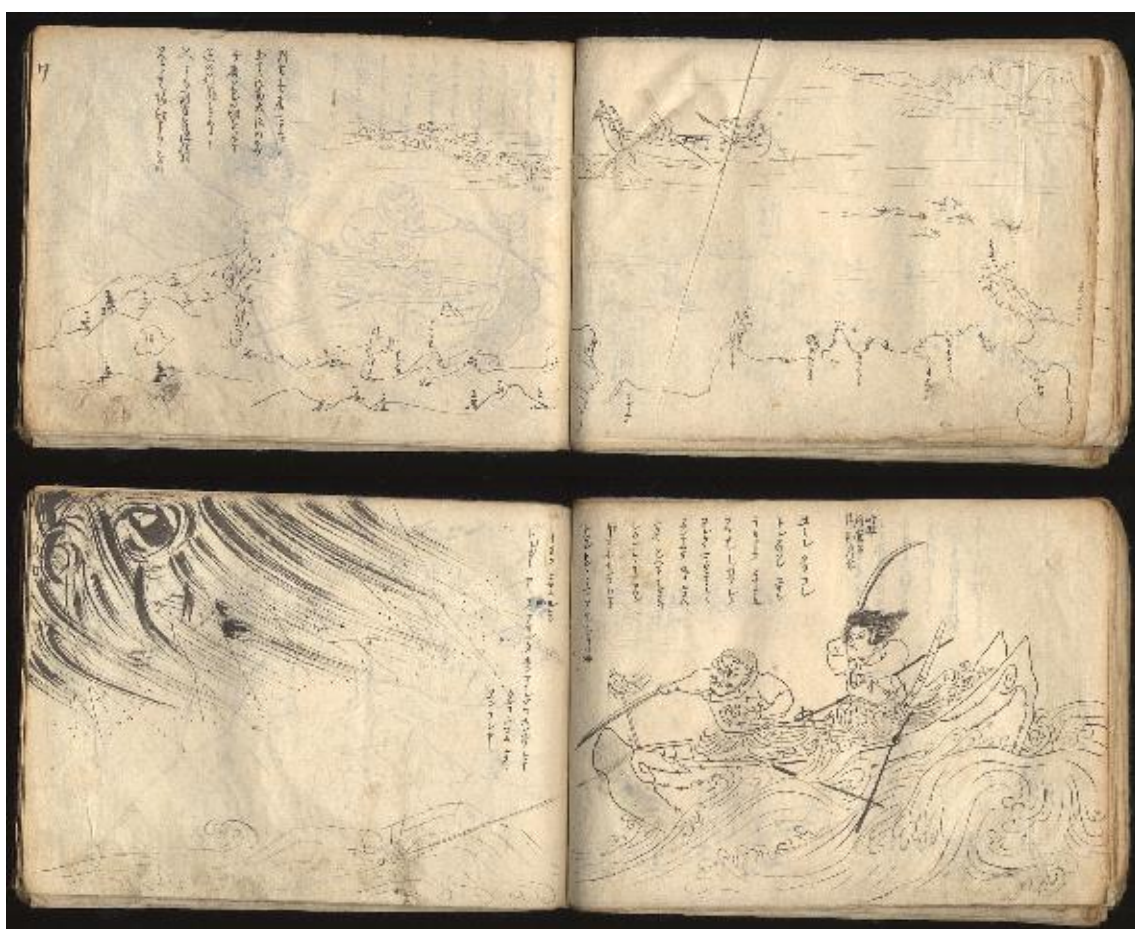
「加賀家文書等資料」

「蝦夷風俗図絵蝦夷語解説②」から見る「義経伝承」について～その3

4、5月号と『加賀家文書等資料』の「蝦夷物語」により「義経伝承」を紹介しました。今月号から同じく「義経伝承」が記録されている「蝦夷風俗図絵蝦夷語解説②」という資料を紹介します。

この資料にも、先に紹介した「蝦夷物語」のストーリーが含まれていますが、そのほかにもいくつかの義経伝承が書かれています。

まず、一つめが、下記2枚の資料です。「義経と弁慶が釧路沖で漁を行い大漁でした。弁慶は雌阿寒岳の煙を見て激しい向かい風に気づきました。義経は漁の様子に見とれて帰るのを喜びませんでした。風が強くなり帰路が危うくなった時、義経は神仏のお祈りをしたところ、船に結んだ沢山の釣糸が、風の中をかき分けて船を支えて進むようになった。」という内容です。



下の図のカタカナで書かれている部分は、アイヌ語になります。義経はアイヌ語を話すことができたのでしょうか？ なぜ、アイヌ語で書かれているのでしょうか？ 次号以降の資料の紹介を通して考えていきたいと思います。

【引用文献】2011年「アイヌ語別海地方方言資料集成～蝦夷風俗図絵蝦夷語解説2現代語訳～ 旭川アイヌ語研究会」

別海町郷土資料館だより No.276

発行日 令和4年7月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 6月は、くもり～雨、たまに晴れて気温が高い。不安定な気候で、1番草の刈り取りは大変だったことと思います。7月は、暑くなりそうな予報も出ております。気持ちの良い夏を感じたいですね。あまりなじみがないと思いますが、マンモスゾウの特別展を開催しています。ぜひ、ご来館ください。